

【アゼルバイジャン経済トピック 127 号】

在アゼルバイジャン日本大使館

2023 年 2 月 17 日

アゼルバイジャン鉄道公社の事業計画と日本企業への期待

アゼルバイジャン鉄道公社(以下「ADY 社」)のロブシャン・ルスタモフ(Mr. Rovshan Rustamov)総裁に同社の事業計画についてお話を伺いましたのでご紹介します。(同社の概要は、経済トピック第 46 号(「アゼルバイジャン鉄道公社」について)をご参照下さい。)

1. ADY 社は、1880年以來の長い歴史を持ち、国内や旧ソ連邦内の輸送インフラの基幹を担ってきました。現在は東西・南北の広域物流網の整備、鉄道システム近代化・インフラ整備という大きな課題に取り組んでいます。また、アルストム(仏)やスタドラー(スイス)の車両調達など諸外国の民間企業とも協力関係を持っていますが、素晴らしい鉄道技術を有する日本企業との協力も是非進めたいと考えています。
2. ウクライナ情勢を受け、中央回廊を利用する貨物量のうち、特に西行き(中国から欧州)貨物が増加しています。他方でインフラの未整備、資機材の不足、オペレーションの拙さ故に中央回廊の各所で輸送遅延が指摘されており、ADY 社としては各国カウンターパートと共に課題の解決に注力しています。
3. 南北回廊(露～アゼルバイジャン～イラン)も以前から注目されてきましたが、露は同回廊の鉄道未開通部分であるアスタラ(アゼルバイジャン・イラン国境)・ラシュト間170kmの線路敷設に強い関心を示しており、露政府がイランに対して資金協力を行っています。完成すれば、トランジット貨物の増加など ADY 社のビジネス拡大にも繋がります。
4. ザンゲズル回廊(アゼルバイジャン本土と飛び地ナヒチバンを繋ぐアルメニア領部分)を経由した広域鉄道ルート整備は解放地域の復興開発の重点の一つです。解放地域区間の40%で線路敷設工事が完了しており、ナヒチバン区間の鉄道インフラ改善を本年中に着工する予定です。残りのアルメニア領内の区間はロシアを加えた3か国間で協議中のところ、ADY 社としても早期着工に向けた準備を整えています。
5. 日本企業に是非参画いただきたいプロジェクトについても幾つか紹介いたします。まず、信号システム改修に関して、昨年末から10か年計画に基づく取組を進めており、今後入札を行う予定です。また、中央回廊の貨物需要増に対応するために、コンテナ用プラットフォームの整備に係る調達を進めており、本年中に数百台規模で追加調達予定です。このほか、今後4年

程度をかけてERP(統合基幹業務)システムを導入し、当社全体の業務効率化を図る計画です。
詳細については ADY 社のホームページに掲載しているので是非ご覧ください。

アゼルバイジャン鉄道公社 公示情報(アゼルバイジャン語のみ):

<https://corp.ady.az/satinalmalar-ve-herraclar/satinalmalar>

(以上)